

ゴールドマン資産運用部門トップ

米金融大手ゴールドマン・サックスの資産運用部門トップのマーク・ナックマン氏は日本経済新聞の取材で、主力の投資銀行部門と連携して事業を拡大する方針を示した。海外投資家から日本市場の関心が高まっており、日本の企業や不動産への投資も増やしていく。

ナックマン氏は2022年に発足したアセット&ウェルスマネジメント部門のグローバルヘッドを務める。ゴールドマンは主力の投資銀行の苦戦や、個人向け事業縮小に伴う損失でグループ全体の業績が低迷するなか、運用部門を成長戦略の柱に位置づける。

運用業界は米ブラックストーンやKKRなどファンド專業との競争が激しいが「投資銀行部門と連携し、主にプライベート（未公開）資産への投資でかな

「日本市場で投資拡大」



マーク・ナックマン氏

りの量の案件を獲得できている」（ナックマン氏）とした。

投資銀行で関与したM&A（合併・買収）案件で、買収資金の調達時にゴールドマンのファンドが融資するケースが増えており、23年にはスウェーデンの投資ファンド、EQTが英国の動物医薬品会社を約45億ドル（約8400億円）で買収する際、ゴールドマンが資金の一部を融資した。

ゴールドマンの運用部門では幹部の退社が相次ぐ。23年7月にジュリアン・ソールズベリー最高投資責任者（CIO）が退社し、米投資ファンドに転出す

個人にファンド販売計画

ることが明らかになった。アジア太平洋地域のプライベート投資部門の共同責任者だった村田貴士氏も米大手ファンドへの移籍を決めた。

幹部退社の理由をナックマン氏は「組織再編など多くの変化が起きた」ことを挙げた。

ナックマン氏は「現在では投資家の数や預かり資産を安定的に増やすことを重視している」と話した。資産残高は23年9月末時点で2兆6800億ドル（約400兆円）と1年間で1割増えた。

日本市場を巡っては「経済基盤が非常に安定しており、海外投資家から日本への投資を増やすよう期待されている」と述べ、プライベートエクイティ（PE）（未公開株）投資を拡大する方針だ。ゴールドマンは22年にENEOSホールディングスと組んで道路舗装大手NIPPPOを非公開化した。足元で関心のある分野としてテクノロジー関連

企業を挙げた。

不動産分野への投資も拡大する。22年には米フォートレス・インベストメント・グループが国内ゴルフ場最大のアクロディア・ゴルフを買収する際、資金の一部を提供した。23年7月にはシンガポールの不動産ファンドなどと組み、大和ハウス工業から国内ホテル27棟を取得した。

日本では機関投資家のほか、富裕層を中心に個人からの資金調達にも注力する。24年以降にプライベートクレジットなどの未公開資産に投資するファンド

の販売を計画。「世界で個人投資家が未公開市場に資金を振り向け始めており、日本でも期待できる」と述べた。

政府が特区を設けて海外運用会社の参入を促すことについては「約50年前から日本にオフィスを構えており、高い知名度とブランドを持っている。競合が増えても大きな影響はない」と話した。

（和田大蔵）